

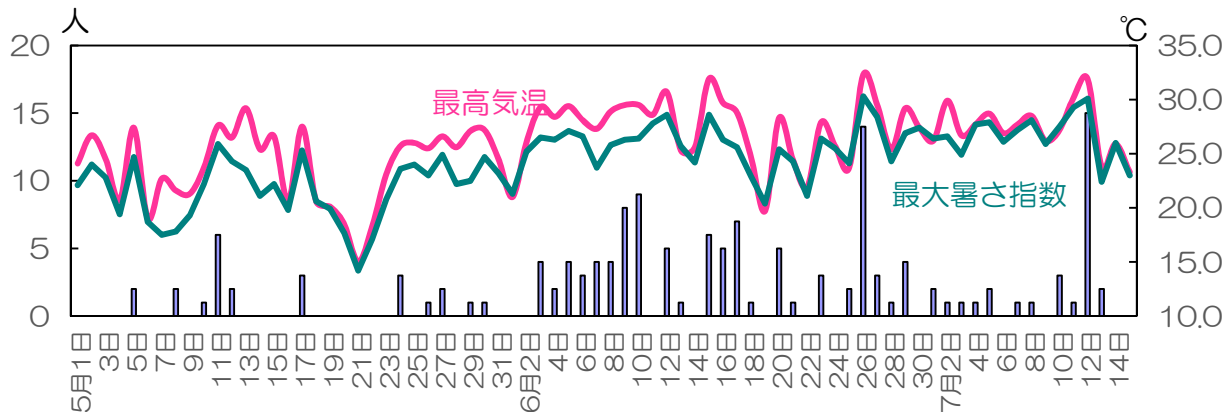
熱中症情報

<搬送数>

令和2年5月1日～7月15日までの搬送数（消防局データを使用）は、計150人（5月24人、6月96人、7月30人）でした。6月は最高気温が25℃を超える日が多く、搬送数も増加し、6月26日は、最高気温が32.3℃（今期の最高値）で、搬送数も14人でした。7月上旬は気温が低く、搬送数も少なく0～2人/日でしたが、7月12日は最高気温が31.9℃で、15人と多かったです。

熱中症は、梅雨入り前の5月頃から発生し、暑い日が続いてくると多発する傾向があります。気温が高いなどの環境下で、体温調節の機能がうまく働かず、体内に熱がこもってしまうことで起こります。身体がまだ暑さに慣れていない梅雨の時期は、蒸し暑い日、風が弱い日、日差しが強い日等に増加する傾向がありますので、こまめに水分を取り、室温を適切に調節し、暑さから身を守りましょう。

今年は、新型コロナウイルスを想定した『新しい生活様式』を実践し、感染症予防とともに、これまでに以上に熱中症予防にも心掛けましょう。



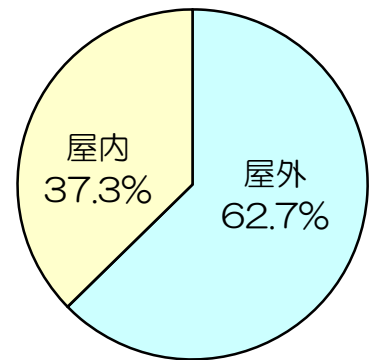
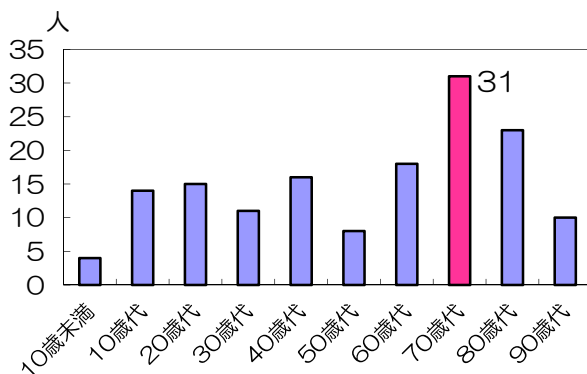
暑さ指数とは？人間の熱バランスに影響の大きい①温度 ②日射・輻射(ふくしゃ)など周辺の熱環境 ③気温の3つを取り入れた温度の指標 詳細は「環境省熱中症予防情報サイト [暑さ指数\(WBGT\)とは?](#)」をご覧ください。

<年齢別>

年齢別では、70歳代が31人と、最も多く、20.7%でした。

<発生場所>

屋外62.7%、屋内37.3%で、屋外での発生が多くなっています。



<重症度>

軽症60.7%、中等症36.0%、重症2.7%、重篤0.7%でした。高齢者（65歳以上）の重症の割合が高くなっており、高齢になると重症化の傾向が伺えます。

